

会 議 録

会議名	佐久市公民館運営審議会
日時	令和7年3月19日(水) 午後3時～午後4時42分
場所	市民創錬センター 大会議室
出席者	審議会委員 12名出席(竹内真一委員・櫻井美智子委員・白井清治委員・窪田光男委員・土屋しのぶ委員の5名欠席) 市(事務局):柳澤中央公民館長、三石浅間公民館長、浅川野沢公民館長、小平中込公民館長、青木東公民館長、小山臼田公民館長、浅川浅科公民館長、井出望月公民館長、木曾、大塚
【主な内容】 会議事項	
事務局	(1)令和6年度佐久市地域公民館への支援について ・地域公民館関係者研修会 資料1ページを説明。
委員	浅間地区は人口が多い。自分は公民館長を11年やっているが、講演会などに参加してくれる人は減っている。そのことが気になっている。高齢者が対象になっている。若い人に参加してもらえる行事になればと思っている。
事務局	(2)参加者アンケート調査報告書(令和6年度)について 資料2ページから3ページまでを説明。
委員	毎年、人の集まりが悪い。何をやっても人が集まらない。その点について、人を集める方法のいいアイデアがないかと思っている。70歳前後の人が多い。若い人は仕事で忙しい。難しいかなと思っている。
委員	年代別の集計表について、20歳代から30歳代で微増となっている。30歳代一般の人が増えたのはすごいと思った。
事務局	(3)公民館関係施設の利用状況について 資料4ページから5ページまでを説明。
委員	コロナがあけて、利用件数が増えているのはうれしい。令和5年度より令和6年度の方が、利用人数が減っている。興味を持ってもらって、増えていくといいと思っている。自分は野沢に住んでいる。いろんなところで公民館を利用できたらいいと思っている。
委員	野沢会館の近くを通りかかったとき、広い駐車場にびっくりした。浅間会館の駐車場は狭いと感じた。駐車場が広いということは、講座等を開催するうえで違うと思う。
事務局	(4)令和6年度中央公民館の事業実績について ・創錬の森市民大学・大学院 資料6ページを説明。
委員	大学院に入るには、大学を卒業するなどの縛りはあるか。
事務局	大学を1度でも修了した人が、大学院に入学できる。

委員	修了認定は8割の出席が必要で、今も変わらないか。
事務局	変わらない。
事務局	大学も大学院も1年ごとで、8割出席で修了証を手にする。大学を何度履修してもいい。最高で18年連続で入学している人がある。大学院だけの人、大学と大学院両方の人がある。皆さん生き生きと学ばれている。
委員	大学と大学院の入学者は、どこの地区からきているか。
事務局	令和6年度は、大学が、浅間地区23人、野沢地区29人、中込地区22人、東地区12人、臼田地区16人、浅科地区9人、望月地区10人だった。大学院は、浅間地区4人、野沢地区4人、中込地区1人、東地区1人、臼田地区2人、浅科地区2人、望月地区3人だった。大学と大学院の併願者は、17人中6人いた。
委員	大変熱心に学ばれている人が多い。大学と大学院の併願の人は、多いとき1か月3回通われている。健康的でいい。仲間づくりができる。大学院を修了した人は、地域に戻って地域の活動に参加するということを、公民館で誘導するようにしてほしい。修了者に協力してもらって、活動が盛んになればいいと思う。
事務局	塩川委員が言ったように、大学は地域社会に還元することを目標としている。80歳代に突入した人は、地域の役やボランティアなどをやってきたとお見受けしている。大学院では自己表現をしてもらっている。7月9日に広告の紙で肩たたきを作った。9月10日にさくら苑で肩たたきをプレゼントした。同年代の入所されている人と輪になって、大声で歌った。今までで初めてのことだった。
会長	大学院での6月の自己表現はどんな様子だったか。
事務局	大学院は年齢が高い。話が止まらないほど上手な人が多い。得意なものしか出さないという傾向がある。隣のまるまるさんは何何ですと紹介すること、俳句の作り方を学び自己表現をすることなどで、自分の殻を破ることを目指した。
会長	講師をされて感じたことは何か。
事務局	大学院は多くの人が杖を使い耳も遠い。マイクを通した声が聞こえない。大学院は小さい会場で活動できることが素晴らしい。
委員	地域に学んだことを還元していく。さくら苑を訪問した際の反応はどうだったか。
事務局	その時の記事を公民館報に載せた。認知機能の低下で、口が動いている人があまりいない。特養は介護度が重いが雰囲気は温かい。私たち自身が行って良かったと感じた。施設長も感動していた。
事務局	(5)令和7年度学級・講座事業計画について 資料7ページから13ページまでを説明。
委員	親子ふれあい学級は小学校、中学校を対象にしている。工夫している。ありがたい。地域で育てていく機会を作ってもらっている。講師として何度も名前が出てくる内田すみ江さんが気になった。講師として活躍している人があることは素晴らしい。佐久の中で活躍できる方を知ることが大事だと感じた。小学校では、探究的な学びに力を入れてやっている。公民館が発表の場になればいいと感じた。そうならば、若い世代にも広がっていくのではないかなと思う。
委員	大勢の方に参加してもらうのにご苦労されている。若い方、子育て世代に参加を促す。仕事があれば昼間参加できないのは自然なこと。20歳代から30歳代に参加してもらうため、日時やPRの仕方など促す工夫があればお聞かせいただきたい。

事務局	公民館報から情報を得ている人は、アンケートに答えた人の71.4%。電子申請のアンケートをとったとき、公民館報とSNSがほぼ半々だった。SNSの重要性がある。LINEから見るができたり、ホームページに載せたりしている。今後もPR方法を工夫していく必要がある。佐久ケーブルテレビに、火曜日に出ている。学習グループを紹介したり、公民館報の見どころを伝えたりしている。
委員	午前中、雪の中息子の卒業式に、PTA連合会長として出席した。令和7年度自分は会長を交代する。公民館はあまりなじみがない。お知らせが少ないと感じる。地域の回覧はあるか。
事務局	回覧はないが、公民館報を全戸配布している。
委員	娘は創造館で月2回土曜日の午後に歌を歌っている。少年少女合唱団に入っている。年末には、生のオーケストラと共演する。創造館は3年後くらいに閉館する。図書館の建て替え検討は、創造館と一緒に聞いた。公民館と一緒にやっていけたらいいと思っている。
	(6)その他
会長	佐久市の友好都市のモンゴルから来た人が、臼田小学校で楽器演奏をやってくださった。いいなと思った。異文化交流は、子どもたちにとっていい経験になる。
会長	以上で会議事項は終了。